

橋本： 「介護に関わる方はもっと優遇されるべきだと思います。介護と医療事務は女性が多く給料が安いですが、いま現在、看護師の給料は高く、専門性があり、素敵なイメージがあるように、介護士もいずれ看護師のように地位が高くなり、給料が上がるのではないのでしょうか」ということですが、いかがですか？

高野： 一般の方が実際に思われているということで、「介護士がもっと優遇された方がいい」という実直な意見ですよ。よく 3K と言われますが、介護士がいない頃は、もともと僕ら看護師がこういうことを言われていたんですよ。

橋本： そうなんですか？

高野： 介護士の仕事は、元々看護師がやっていた仕事で、手が足りなくなって介護職をつくって、としてきているので看護師と介護士は変わらないと思う。「看護師の給料は高く、専門性があり、素敵なイメージがある」というのは、人がつくったイメージ。介護士に対するイメージも周りの人たちが言うだけで、介護士たちはそんな風に思って仕事はしていないんです。実際に介護士を見てみると、専門性もありますし、見ていて素敵な仕事です。給料が安いのは、確かに介護保険制度自体が上手に運用されていなかったり、元々の介護報酬が安いので、給料が上がらないというのが現状。介護士に対する処遇は、国をあげてきちんとしていかなければいけない問題だと思うんですよ。もっと周りが介護の仕事と地位を上げていけば、介護士の給料も良くなる、と僕は思います。もっと優遇されるべきだと、確かに思う。介護士の仕事に専門性が無いと言われるれば、介護士は専門職です。専門性があるのでこれからどんどん認められていくと思います。

橋本： では実際に介護士の給料はこれから上がっていくのでしょうか？

高野： 僕も介護施設をやっていて、介護職員初任者研修を受けた方の給料が、夜勤無し、交通費無しで基本ベース年収 300 万円スタートという設定にしています。その中で会社の収支も見ながら、どういう風に給料を上げようかと考えています。確かに経営を考えると、会社にもお金を残さなければいけないんですけども、僕が介護士たちを見ていて「給料を上げたいな」って思えるようになっていって欲しい、というのがあります。「やるべき仕事をしっか

りして、周りも引っ張っていったるね」ってなった時に、「よし、じゃあ、それに対して付加価値として給料をつけていこう」っていう風に。介護士は今の上のままでは給料は上がらないけど、今よりもっと知識をつけ、技術をつけ、バージョンアップしていけば、当然自ずとそこに給料っていうのはついてくると思うんです。それだけやっても給料上がらない施設だったら、そこまでの辞めた方がいいよね。

橋本： 言い切りましたね。

高野： やっぱり、そういうことをきちんと評価してくれる介護施設に勤めて、たくさん給料がもらえるようになっていった方がいい。それに、介護施設が増えてきている中で、介護士を正當に評価できる施設が生き残っていくと思う。

橋本： 一般的な仕事と同じように、自分の評価に対して給料が上がっていくということですね。

高野： そういう世界にしていかななくてははいけないんです。介護士が「プロだ」というなら、「プロ」に対する給料を払わなければいけないし、「プロ」なら「プロ」として正當な評価をされなければいけない。いつまでも同じレベルでは、給料が上がる訳がない。今よりバージョンアップした時に、それに対して対価を払うという風に変わっていかないとはいけない。看護師も、仕事に専門性が出て、立場も良くなり、給料が上がった、という文化をつくってきたので。

橋本： 介護業界全体でステップアップしていけば良い訳ですね。

高野： 例えば、これだけの給料がもらえないなら、ここでは介護やりませんって言える位の力を持った介護士が出てくれば、給料を上げざるを得なくなると思うんです。僕はそれでいいと思うんです。

橋本： なるほど。そうやって介護業界全体の底上げをしていきたいですね。

高野： そうですね。

橋本： ありがとうございます。